

目録作成と書誌ユーティリティ

芳鐘 文子

一橋大学学術・図書部学術情報課図書情報係長

1. 書誌ユーティリティ NACSIS-CAT/ILL

1.1 今、NACSIS-CAT/ILL の危機が叫ばれている

(1)「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト中間報告」(平成 17 年 4 月 14 日)

NACSIS-CAT 品質低下の背景

- ・共同構築に対する意識の希薄化
- ・目録担当者の削減とスキルの低下
- ・目録系業務の低コストでの外注化

全体として全国総合目録構築に図書館の経営資源を投下しない状況

(2) 科学技術・学術審議会学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について(中間報告)」(平成 17 年 6 月 28 日)

「学術情報流通における NACSIS-CAT/ILL の役割を再評価し、新たなビジョン・理念を打ち出す必要がある。」との認識

1.2 NACSIS-CAT/ILL についてのおさらい

(1) 歴史

1985(昭和 60)年 4 月 NACSIS-CAT 正式運用開始

(2) 概要

- ・オンライン共同分担目録作業 → 総合目録 → 相互利用
- ・書誌共有型

(3) 現在の規模

1.3 品質問題は当初から - - 書誌共有型の宿命 - -

(1) 重複書誌

重複書誌増 → レコード調整増・困難に

(2) 著者名典拠ファイル

- ・典拠リンクの任意化(1987 年 11 月～)
- ・新規作成件数低下 書誌レコードとのリンク形成率低下

(3) 総合目録データベース実務研修の成果物にみる問題意識の高さ

1.4 なぜ今、大問題に？

2. 大学図書館の目録業務の変化

2.1 目録業務の位置づけ

(1) 目録業務の専門性

日本図書館協会「専門性の確立と強化を目指す研修事業検討ワーキンググループ(第2次)報告書」(2000年3月21日)の業務分析表における目録業務

(2) 目録の知識・技術の必要度

日本図書館情報学会 LIPER 大学調査班「大学図書館員の養成に関する質問紙調査」(2004年6月～7月実施)にみる大学図書館職員自身の意識

2.2 目録業務担当職員の減少

(1) 文部科学省「大学図書館実態調査報告」職務内容別職員数

	2004(平成16)年度	1985(昭和60)年度
整理専門職員全国総数	2,038人	2,720人
1大学平均	3人	6人
全職員に対する構成比	15.0%	25.5%

(2) この数値をどう解釈するか

目録業務効率化の結果削減 / 他の業務を重視してシフト / やむを得ず 等
大学ごとに経営的な判断をした上での選択

2.3 外注・アウトソーシング化

アウトソーシングの最大の問題点

職員側に経験やノウハウの蓄積ができなくなる

3. 一橋大学附属図書館の目録業務

3.1 現場の生の声 異口同音

(1) 目録の品質を保つために日頃気をつけていることは何か

- ともかく基本的な注意事項を守る。
- 図書現物を隅々まで見る。
- 重複書誌を作らないよう、新規書誌作成前に徹底した検索を行う。
- レコード調整や情報源提供の依頼には、なるべく早く対応する。

(2) 一橋大学の目録業務の長所は何か

- 書誌を充実させることに重点を置いている。
- 目録担当者への教育が徹底している。
- 独自マニュアルの整備・管理ができています。

3.2 一橋大学学術・図書部学術情報課図書情報係

(1) 一橋大学と附属図書館

- ・わが国で最も古い社会科学の総合大学 文献に依存することが大きい研究領域
- ・伝統的に目録所在情報を重視している図書館

・1991(平成 3)年 7 月 図書整理業務の電算化本格実施 NACSIS-CAT に登録開始

(2) 図書情報系の発足・概要

・2004(平成 16)年 4 月 法人化に伴い組織再編

・受入係と(旧)図書情報系の統合

・図書館内に情報推進課(大学全体の情報推進を行う部署)新設のため受入・整理業務のスリム化が必要

・2005 年 1 月予定の図書館業務システムリプレイスを見込んで

・業務統計

(3) 業務分担の工夫

・整理業務総括担当者の明示

初任者への指導、図書整理マニュアル作成・維持、

整理状況把握、整理担当の指示、相談窓口

・主となる業務 / それ以外業務

係内のメンバー同士の関連性を複数持つ

・目録業務と受入業務をひとつの係で行う長所・短所

3.3 図書情報系のべえじ(図書情報係マニュアル)

(1) 歴史

1996(平成 8)年度 和書係・洋書係統合 の前後から

洋書と和書のちがいを整理しながら徐々に作成

(2) 特徴

・業務用サイトにて公開

・係ミーティングとフィードバック 即時更新

・コーディングマニュアルを引用しながらの説明

(3) 現在の構成

目次	章の数	内容
1. 新マニュアル - 1 (発注～整理)	23 章	システム処理概要、処理画面の各入力項目で記入すべきこと・注意
2. 新マニュアル - 2 (整理業務要領)	22 章	レコード調整の方法、参照ファイルについてなどコンパクトな説明
3. 新マニュアル - 3 (整理業務ツール)	27 章	遡及入力冊数調、整理業務関係年表、元号年号対応表
4. 書誌レコード登録(洋図書)	22 章	新規書誌レコード作成や書誌同定時の留意事項
5. 書誌レコード登録(和図書・雑誌・他)	24 章	フィールドごとの説明、情報源の注意など
6. 分類記号・分類作業	18 章	分類表、分類作業の注意事項、分類変更の経過
7. 分類記号別タイトル一覧		視聴覚資料、本学関係資料

3.4 ここがふんばり時

(1)ベテラン職員からの継承

(2)効率化の模索も一方で

- ・システムによる分類自動変換
- ・業務フローの見直し、目録自動登録の検討

4. おわりに：これからどうすればよいのか

・共同分担目録の理念の原点にたちかえる

誰のための何のための目録か

・大学当局への説明

全国・全世界の学術情報流通に貢献していることをアピール

「書誌充実力」を売りにすることはできないか

【主な参考文献・情報源】

- ・宮澤彰『図書館ネットワーク：書誌ユーティリティの世界』（情報学シリーズ 5）丸善, 2002.
- ・国立情報学研究所「NACSIS-CAT/ILL：目録所在情報サービスホームページ」
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/home.html>（最終アクセス 2005 年 9 月 22 日）
- ・国立情報学研究所「総合目録データベース実務研修」
<http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/Db/>（最終アクセス 2005 年 9 月 22 日）
- ・兎内勇津流「NII 総合目録データベースにおける著者名典拠ファイルの形成過程」『大学図書館研究』No.73, 2005, p.1-14.
- ・八木敬子ほか「目録担当者から見た NACSIS 総合目録データベース」『情報の科学と技術』Vol.39, No.6, 1989, p.201-210.
- ・北克一「書誌ユーティリティにおける目録：NACSIS-CAT を例として」『図書館界』Vol.43, No.2, 1991, p.89-96.
- ・気谷陽子「学術情報システムのもとでの大学図書館サービスの展開」『日本図書館情報学会誌』Vol.49, No.4, 2003, p.137-155.
- ・小山憲司「NACSIS-CAT を活用した大学図書館における目録業務の現状と課題：東京大学総合図書館における書誌レコード調整業務を中心に」『TP&D フォーラムシリーズ』No.12-14, 2005, p.59-72.
- ・永田治樹ほか「大学図書館における情報専門職に関する調査：LIPER 大学調査班中間報告」
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper/presentation/univ2004.pdf>（最終アクセス 2005 年 9 月 22 日）
- ・三浦逸雄ほか「大学図書館員の知識ベースと図書館学教育（ ）：「図書館学教育の実態と改善に関する調査 - 大学図書館編」の報告」『図書館学会年報』Vol.37, No.2, 1991, p.49-63.
- ・鈴木正紀「アウトソーシング」『変わりゆく大学図書館』勁草書房, 2005, p.177-190.